新設授業科目　授業記録

開講科目名：　学術交流英語	科目群名【研究マネジメント　　】
担当教員名：杉峰英憲	開講学期・曜日・時限【前期　　・土曜日　・集中　】

第１回授業実施日 **【　５月２７日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	①　本時のねらい 　英語による学問的な討論の要となる論理性と表現性、ならびに説得性に関する事例研究を行い、英語による学術交流に必要な具体的な方略を学ぶ。 ②　本時の内容 1.　日本語表現と英語表現における考え方の差違について。 ・　メッセージの伝え方による差違 ・　英語のダイレクトな表現への発想 2.　文の構造による差違について。 ・　英語の能動型と日本語の受動型 ・　英語の要素論と日本語の全体論 ③　本時の成果 1.　日本語と英語では確かに違いがあるという実感が得られた。 ④　自己評価 1.　事例研究に使った発表内容が学術的なものであり、もっとシンプルな方が理解をより促進することができたと思われる。
第２回授業実施日 **【　５月２７　日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	①　本時のねらい 　各自の学問・研究分野から発見した課題を英語プレゼンテーションのフォームに整形し、予想されるディスカッションの観点を探る。 ②　本時の内容 1.　「聴覚障害の克服」について 2.　「企業福祉のパイロット機能」について 3.　「幼稚園における豊かな環境作り」について ③　本時の成果 1.　イントロ、ボディー、コンクルーションの論理構成が理解された。 2.　キーアイデアの役割が理解された。 3.　反証可能性と説得力の関係が理解された。 ④　自己評価 1.　予想外に時間がかかり一方的な説明に終わった部分がある。 2.　日本語プレゼンテーションの序論、本論、結論のフォームのイントロ、ボディー、コンクルージョンの差違についての説明が不十分であった。

第 3 回授業実施日 **【　６月　３日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	①　本時のねらい 　英語によるプレゼンテーションやディスカッションを通じて説得力のある主張と交流のマナーを身につける。 ②　本時の内容 1.　「聴覚障害の克服」に関するプレゼンテーション 2.　ATR 主任研究員 Nick Campbel 氏をゲストに、全員でディスカッションを行った。 ⑤　本時の成果 1.　原稿を読み上げるのではないプレゼンテーションのセンスが理解された。 2.　英語表現における能動型の重要性が理解された。 ⑥　自己評価 1.　ディスカッションで発表者に過大な要求が、ディスカッションの活性化を損ねた時があった。 2.　英語によるディスカッションへの導入ができた。
第 4 回授業実施日 **【　６月　３日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	⑦　本時のねらい 　英語によるプレゼンテーションやディスカッションを通じて説得力のある主張と交流のマナーを身につける。 ⑧　本時の内容 1.　「企業福祉のパイロット機能」に関するプレゼンテーション 2.　ATR 主任研究員 Nick Campbel 氏をゲストに、全員でディスカッションを行った。 ⑨　本時の成果 1.　英語表現における内容の重複性が理解された。 2.　英語表現における説得性にはたすキーアイデア役割が理解された。 ⑩　自己評価 1.　ディスカッションの途中で日本語によるサポートを行ったが、結果としてはよくなかった。 2.　英語によるディスカッションのマナーについてわかりやすく説明ができた。

第 5 回授業実施日 **【　６月　３日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	⑪　本時のねらい 　英語によるプレゼンテーションやディスカッションを通じて説得力のある主張と交流のマナーを身につける。 ⑫　本時の内容 1.　「幼稚園における豊かな環境作り」に関するプレゼンテーション 2.　ATR 主任研究員 Nick Campbel 氏をゲストに全員でディスカッションを行った。 ⑬　本時の成果 1.　要素論による論理的積み上げが説得力につながることが理解された。。 2.　英語表現におけるエビデンスの重要性が理解された。 ⑭　自己評価 1.　キーアイデアのオリジナリティーを生かすエビデンスの重要性に関して、Campbel 氏の主張を理解できる英語に翻案した。 2.　活発なディスカッションができた。
第 6 回授業実施日 **【　６月　３日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	⑮　本時のねらい 　ゲストの総合的評価を受け、英語によるプレゼンテーションやディスカッションの理解を深め、論理性と表現性の具体的な方略を探る。 ⑯　本時の内容 1.　プレゼンテーション全体を通じての総合評価 2.　ATR 主任研究員 Nick Campbel 氏による総合評価 3.　発表者による自己評価 ⑰　本時の成果 1.　原稿を読み上げるのではないプレゼンテーションのセンスが理解された。 2.　英語表現における能動型の重要性が理解された。 ⑱　自己評価 1.　ディスカッションで発表者に過大な要求が出され、ディスカッションの活性化を損ねた時があった。

第７回授業実施日 **【　６月　３日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	①　本時のねらい 　ゲストによるプレゼンテーションの改善点の提案を巡るディスカッションを通じて、英語による学術交流の意味を確認する。 ②　本時の内容 　Nick Campbel 氏の改善提案 1.　英語表現のマナー 2.　英語表現の論理性 3.　エビデンスの組み込み方 4.　反証可能性の重要性 ③　本時の成果 1.　英語によるプレゼンテーションの特質についての理解が深まった。 ④　自己評価 1.　Campbel 氏の指摘は、専門的でかなり難解な内容を含んでいるため、日本語に翻訳して解説せざるを得なかったところがある。次年度に向けては、これらの改善点を予備知識として理解しておくよう授業計画を改善する必要がある。